

～日本語の指導を必要とする児童や生徒が全国的に増加中～ 多文化共生社会における言語教育の課題と、 今後の言語系教員養成の在り方を考えませんか？

ポイント

- 👉 **第1部：多文化共生社会における教育課題解決を目指した官学地域連携によるオンライン日本語指導事業**
- 👉 **第2部：卒業後のキャリアに向けた学士課程の言語教育**

山口県立大学 国際文化学部は、山口県 義務教育課と双方の日本語教育の内容の充実に資するとともに、グローバル人材育成に向けた児童生徒及び学生の資質・能力を高めるための連携・協力関係の形成に関する覚書を締結しました。2022年10月からは、県内の小学校や中学校の日本語指導を必要とする児童生徒に対し、オンライン指導をスタートさせました。第1部では、取り組みの背景や教育カリキュラムを紹介するとともに、日本語指導を行った学生、児童生徒が通う学校、行政の観点から、その成果と今後の課題について議論していきます。

第2部では、日本語教師や英語教諭などの言語系教員を志望している大学生が学んでおくべき学問的素養とは何かを探求していくとともに、言語系教員の資質向上につながる知識を過度な負担なく身につける方法を議論していきます。是非、取材の検討をお願いします。

山口県立大学 国際文化学部 「多文化共生社会における言語教育の課題と今後の言語系教員養成の在り方」の開催について

【日時】2023年2月27日（月）

●第1部：10時15分～12時10分

●第2部：13時00分～16時45分

※入場無料。

※内容は、第1部、第2部で異なります。

【場所】山口県立大学 3号館5階 C546教室
(山口市桜島6丁目2-1)



～オンライン日本語指導の様子～

【参加申込】下記 URL または、二次元コードから事前にお申込みください。

<https://forms.gle/Du42CcLUEzBy1TdCA>



お問い合わせ先

〒753-0021 山口市桜島6丁目2-1

山口県立大学 国際文化学部（担当：木下）

TEL：083-929-6249 Email：hkinoshita@yamaguchi-pu.ac.jp

法人経営部 事業管理・経営企画部門
担当：木村（きむら）【大学広報担当】
TEL：083-928-3417 FAX：083-928-3464
Email：ypu-koho2@yamaguchi-pu.ac.jp

多文化共生社会における 言語教育の課題と今後の 言語系教員養成の在り方



2023年

2/27月

山口県立大学3号館5F
C546 (ALS) 教室

参加
無料



【開催方法】 対面・Zoom 配信

【参加申込】 QRコードから事前にお申込みください
<https://forms.gle/Du42CclUEzBy1TdCA>

タイムスケジュール

第1部	多文化共生社会における教育課題解決を目指した 官学地域連携によるオンライン日本語指導事業	第2部	卒業後のキャリアに向けた学士課程の言語教育
10:15	開会の辞 西田 光一 (山口県立大学国際文化学部長)	13:00	開会の辞 西田 光一
10:20	外国にルーツを持つ児童生徒教育の現状と課題 林 炫情 (山口県立大学国際文化学部教授)	13:05	会話分析・談話分析の日本語教育への応用 名嶋 義直 (琉球大学) 日本語教育
10:35	オンライン日本語指導「てご project」の取組 木下 瞳 (山口県立大学国際文化学部実習助手)	13:35	日本語教育の教材開発と国際交流 小野 正樹 (筑波大学) 日本語教育
10:50	学生報告 成果報告① 「児童と教師の成長」 梶井若葉、開内陽、金光愛莉 (国際文化学科3年) 成果報告② 「得難い経験と感じた力不足」 松野実佳、宇都舞花 (国際文化学科3年、文化創造学科4年) 成果報告③ 「共に学ぶオンライン授業」 棚原凜、安慶名めい (国際文化学科3年)	14:05	前半モデレーター 林 炫情
11:10	外国人児童教育の新たな可能性を探る 辻本 紳一郎 (山口市立平川小学校)	14:15	休憩
11:25	山口県における日本語教育支援体制の構築について 櫻井 健一郎 (山口県教育庁義務教育課)	14:25	ヨーロッパの日本語教室から (オンライン形式) 李 在鎬 (早稲田大学) 応用言語学
11:40	フロアディスカッション モデレーター 立部 文崇 (周南公立大学)	14:55	海外の日本語教育と日本の英語教育の比較 Kristen Sullivan (西南女学院大学) 応用言語学
12:10	閉会の辞 岩中 貴裕 (山口県立大学国際文化学科長)	15:25	後半モデレーター 岩中 貴裕
		15:35	休憩
		15:45	パネルディスカッション 「今後の言語系教員養成の在り方」 西田 光一 (司会)、名嶋 義直、小野 正樹、李 在鎬、 Kristen Sullivan、立部 文崇、林 炫情、岩中 貴裕
		16:45	閉会の辞 西田 光一

多文化共生社会における 言語教育の課題と今後の 言語系教員養成の在り方

第1部

多文化共生社会における教育課題解決を目指した 官学地域連携によるオンライン日本語指導事業

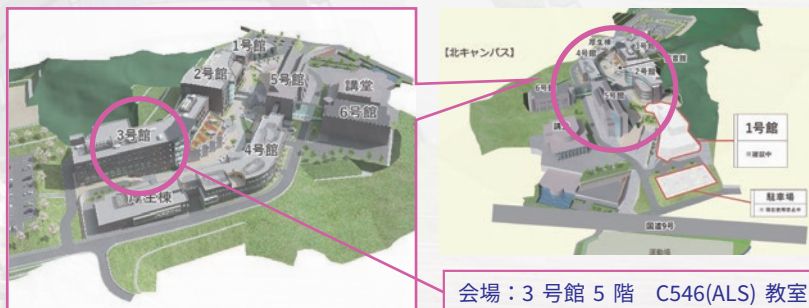
山口県立大学国際文化学部では、2021年度末に山口県教育庁義務教育課（以下、義務教育課）と双方の日本語教育の内容の充実に資するとともに、グローバル人材育成に向けた児童生徒及び学生の資質・能力の向上を図るための連携・協力関係の形成に関する覚書を締結している。そして、2022年10月から県内の小学校4校、中学校2校の日本語指導を必要とする生徒児童計9名に対するオンライン指導をスタートさせた。本セッションでは、取組実施にあたっての背景と教育カリキュラムを紹介する。また、日本語指導を行った学生、外国にルーツを持つ児童生徒が通う学校、行政の義務教育課それぞれの観点からその成果を報告するとともに、今後の課題について議論していきたい。

第2部

卒業後のキャリアに向けた学士課程の言語教育

本シンポジウムでは、日本語教師や英語教諭などの言語系教員を志望している大学生が学んでおくべき学問的素養とは何かを探求したい。もちろん目標言語の言語能力は高くあるべきである。発音が正しく流暢で、語彙も豊富で適切に選択でき、文法に即した作文ができるといった基本を当然、踏まえたうえで、もう一歩か二歩、学問的に先に進みたい。例えば、会話分析で言う隣接ペアに関し、優先の応答と非優先の応答の区別は、授業の進め方にも応用できると思われる。発音では強勢移動に加え、言語のバリエーションとコードスイッチングも理解しておいてほしい。異文化コミュニケーション、EUの言語政策、ラポール形成などに加え、言語研究のDX化を念頭に、電子コーパスの利用法、自然言語処理の基本、オンライン教材の開発技術、AI関係でディープラーニングの翻訳ソフトの活用も視野に入る。全体として言語系教員の資質向上につながる知識を過度な負担なく身につける方法を議論していきたい。

アクセスマップ



〒753-0021 山口市桜島 6 丁目 2-1

【お問合せ】山口県立大学 国際文化学部（担当：木下）

TEL：083-929-6249

Mail：hkinoshita@yamaguchi-pu.ac.jp

本取組は、令和4年度山口県立大学の研究創作活動（大地共創研究型）及び学術推進共同体の助成を受けたものです。